

| | | | |
|------|--------------|------|--|
| 主題 | 排泄介助による業務改善 | | |
| 副題 | ゆとりあるケアを提供する | | |
| 排泄介助 | | 業務改善 | |

| | | | |
|-----------------------|-----|---------|---------------------|
| 研究期間 | 12月 | 事業所 | 特別養護老人ホーム フローラ石神井公園 |
| 発表者：安川祐輔 | | アドバイザー： | |
| 共同研究者：奥村亜矢子、高橋秀幸、井上百世 | | | |

| | | | |
|-----|--------------|-----|--|
| 電話 | 03-3996-6600 | メール | soudanin@flora.or.jp |
| FAX | 03-3996-5551 | URL | http://www.flora.or.jp/ |

| | |
|------------------|---|
| 今回発表の事業所やサービスの紹介 | 平成15年開設、90床の特別養護老人ホームです。福祉事業の多様化を受けて、地域の方々にどのようなサービスが提供できるのか、またどのようなサービスが求められているのか根本的に考え、福祉事業を行う法人として社会的な見地から、それぞれのニーズにあったより質の高いサービスを選定し、豊かな生活の礎を作るお手伝いをしていきます。 |
|------------------|---|

《1. 研究前の状況と課題》

定時の排泄介助においては、介助方法や、汚染しやすいお客様について、時間を決めるなどの対応を行ってきたが、どの職員が担当するまでは決めておらず、ランダムに介助を行ってしまっていた。その結果、動線が長くなり効率が悪く、お客様をおまたせすることにより衣類汚染をしてしまうお客さまもおり不快な思いをさせてしまうこともあった。職員本位の介助になってしまうという問題が浮かんできた。特に認知症の症状が重い方や介助量の多いフロアでは排泄介助に時間がかかりすぎて他の業務へのゆとりができず、お客様の日常にも影響するのではないかと懸念された。

このような事態を踏まえ、排泄委員会ではお客様を待たせず、衣類汚染によるお客様の不快な思いを無くし快適な介助を行うにはどうしたらよいか取り組みを行った。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

排泄介助にかかる時間を短縮することでお客様をお待たせすることなく、衣類汚染を減らし、お客様への不快な思いをなくすことができる。

他の業務へのゆとりを持ち、他のサービスの充実を目指す。

全職員が全てのお客様の排泄状況を把握し、排泄介助に対する意識改革を目指す。

《3. 具体的な取り組みの内容》

○介助時間を短縮するために、動線を短くまた効率を上げるために

排泄チェック表を活用し排泄介助時にお客様をグループケアのABC3グループに分け、当日のリーダーが割り振りを決める。

複数の職員がいる場合はトイレ誘導とケアパンツ対応に分けて更に役割を分担する。

○汚染の減少を目指すために

早めの時間に介助に入るお客様にはチェック欄に黒枠、点線枠を入れ、職員が分かりやすいように工夫をする。

○職員の時間への意識づけを行うために各グループ毎に介助終了時の時間を記入し記録に残す。

開始してから2週間は陰部洗浄、リハビリパンツなど全交換を行う他の介助時間帯より大幅に時間のかかる9時のみであったが、日中の13時、16時の時間帯も行うことになった。

《4. 取り組みの結果と考察》

○お客様に排泄介助をお待ち頂く時間が短縮されたことにより、衣類汚染の減少へとつながった。

○動線も短くなり、あらかじめ介助に入るお客様が把握されているために効率が上がった。

○時間も意識するようになり、以前より平均15分程度終了時間が短縮された。

○毎日その日のリーダーが割り振ることにより、職員が3グループ均等に割り振られることで全員のお客様の排泄介助にかかわることになり、現在の排泄状況を把握しやすくなった。

○レク活動など、以前ゆとりの持てなかった時間を多くもてるようになった。

○改善点としては競争心が強くなり、時間のみ意識している様子があったため、フロアで話し合い、ケアの質を重視するように伝達した。

《5. まとめ、結論》

排泄介助時間を短縮するよう改善することで「お客様を待たせない」と思う排泄介助への職員の意識の変化があった。介助時間を短縮してもケアの質は落とさないという意識を持って更に快適な排泄介助方法の検討を行っていく。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《8. 提案と発信》

日常の業務をこなすことに精一杯になりがちで、「お客様本位」という言葉が飾り物のようになってしまわないよう、これからも質の高い、ゆとりあるケアを目指していきます。

【メモ欄】